柏原市内遺跡群発掘調査概報

平成１７（２００５）年度

平成１９年（２００７）３月

柏原市教育委員会

田辺廃寺　金堂跡出土壁土

はしがき

柏原市は全国でも屈指の遺跡が多い市です。しかし、一昨年国指定史跡にされている田辺廃寺が盗掘されるという事件が起こりました。さらに、遺構の破壊及び遺物の盗難が確認されました。今後、このような事が繰り返されない為にも、文化財の保護、活用にいっそうの努力を傾けていきたいと思います。

今回、刊行する報告書の出土遺物、図面等は柏原市教育委員会で保管・管理しています。広く活用されることを希望します。

最後になりましたが、調査に際して、ご協力、ご努力頂いた関係各方面の皆様には厚くお礼申し上げます。今後もご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

柏原市教育委員会
教育長　三浦　誠

例　　言

1、本書は柏原市教育委員会が平成17年度に実施した、柏原市遺跡群発掘調査概要報告書である。

2、調査は柏原市教育委員会社会教育課　石田成年、島内洋二を担当者として、平成17年4月1日に着手し、平成18年3月31日に終了した。

3、本書は、平成17年4月1日から平成18年3月31日までに着手した土木工事等に伴う事前発掘調査の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第93条に基づく届出、通知のなされたものは207件、その中で発掘調査を実施したものは16件である。

4、本編の編集、執筆は島内が行なった。

5、調査、整理の参加者は次のとおりである。(順不同、敬称略)

有江マスミ　北野重　阪口文子　乃一敏恵　橋口紀子　分才隆司　安村俊史

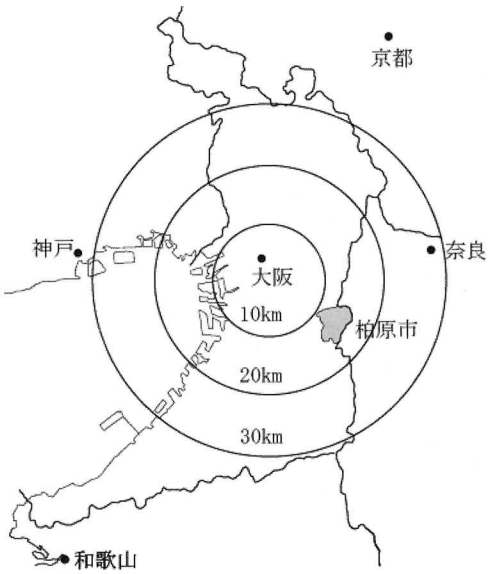
目　　次

平成17（2005）年　柏原市内遺跡発掘調査一覧
第１章　大県遺跡……1
2005－１次調査……2
第２章　大県南遺跡……3
2005－１次調査……4
2005－２次調査……4
2005－３次調査……5
第３章　大県南廃寺……6
2005－１次調査……7
第４章　太平寺遺跡……9
2005－１次調査……10
第５章　太平寺廃寺……11
2005－１次調査……12
2005－２次調査……12
第６章　安堂遺跡……13
2005－１次調査……14
2005－２次調査……14
2005－３次調査……15
2005－４次調査……15
2005－５次調査……16
2005－６次調査……16
第７章　田辺遺跡……17
2005－１次調査……18
2005－２次調査……18
付章　田辺廃寺……19
2005－１次調査……20

平成17（2005）年　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名 対象地（柏原市・・・）	調査次数	調査面積 対象面積	申請者 用途	調査日 （自・至）	文書番号 担当者	備考
大県 平野2-316	2005－1	4.00 128.69	個人 個人住宅	H17.8.22 H17.8.22	171-17 石田・島内	
大県南 太平寺2－569－1の一部他	2005－1	5.00 863.50	個人 共同住宅	H17.5.27 H17.5.27	171-13 石田・島内	提供重機
大県南 大県4-242-1/243-1	2005－2	4.00 664.41	個人 個人住宅	H17.9.15 H17.9.15	171-19 石田・島内	
大県南 大県4-247-4	2005－3	0.75 130.78	個人 個人住宅	H17.11.14 H17.11.14	171-22 石田・島内	提供重機
大県南廃寺 大県4-396-8の一部	2005－1	10.0 117.7	個人 個人住宅	H17.12.1 H17.12.2	171-25 石田・島内	提供重機
太平寺 太平寺2-539-1の一部他	2005－1	3.00 407.45	岡村製作所 店舗	H17.5.2 H17.5.2	171-10 石田・島内	提供重機
太平寺廃寺 太平寺2-361-5	2005－1	0.33 177.90	個人 個人住宅	H17.4.8 H17.4.8	171-9 石田・島内	提供重機
太平寺廃寺 太平寺2-361-1	2005－2	0.60 166.29	個人 個人住宅	H17.5.9 H17.5.9	171-11 石田・島内	提供重機
安堂 太平寺1-130-1/-6/-7	2005－1	4.00 4, 516.41	セブンツーセブン 倉庫、事務所他	H17.6.21 H17.6.21	171-8 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町926-1の1部/926-2	2005－2	4.00 786.66	個人 分譲住宅	H17.7.28 H17.7.28	171-15 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町708-5/686-2他	2005－3	2.00 99.88	個人 個人住宅	H17.4.18 H17.8.30	171-6 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町657-7	2005－4	2.00 86.58	個人 個人住宅	H17.9.21 H17.9.21	171-20 石田・島内	提供重機
安堂 安堂町289-2/291-2	2005－5	0.08 169.13	個人 個人住宅	H17.10.31 H17.10.31	171-23 石田・島内	
安堂 安堂町643	2005－6	3.75 384.81	個人 個人住宅	H17.11.4 H17.11.4	171-21 石田・島内	提供重機
田辺 田辺1-380-1/380-他	2005－1	6.00 1,936.47	竹弘鉄建 宅地造成	H17.7.5 H17.8.1	171-16 石田・島内	
田辺 田辺1-1116/1117-3	2005－2	2.25 434.57	個人 個人住宅	H18.3.9 H18.3.9	171-27 石田・島内	

（平成17年4月1日から平成18年3月31日までに実施した調査）



①大県遺跡
②大県南遺跡
③大県南廃寺
④太平寺遺跡
⑤太平寺廃寺
⑥安堂遺跡
⑦田辺遺跡

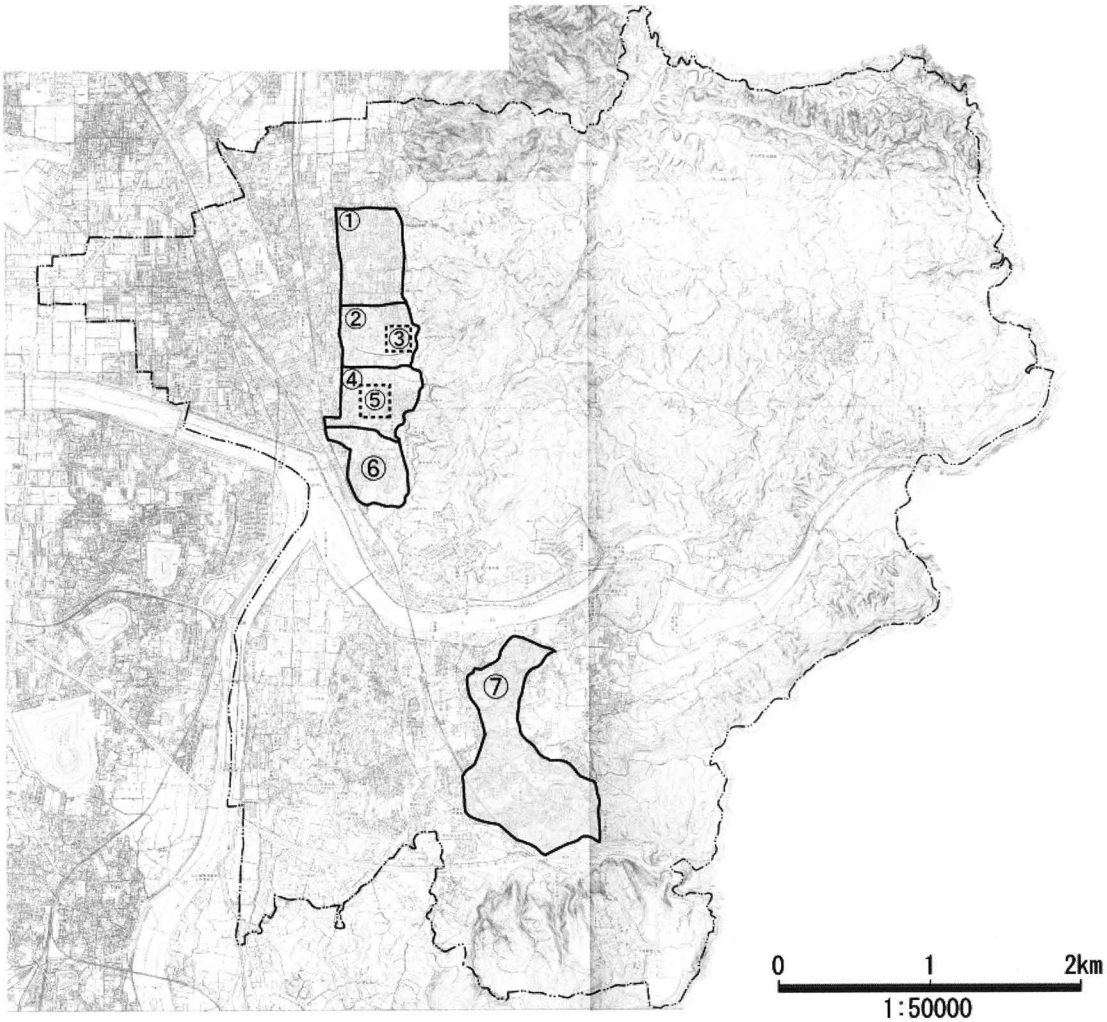


図１　平成17（2005）年度　発掘調査遺跡位置図

第１章　大県遺跡

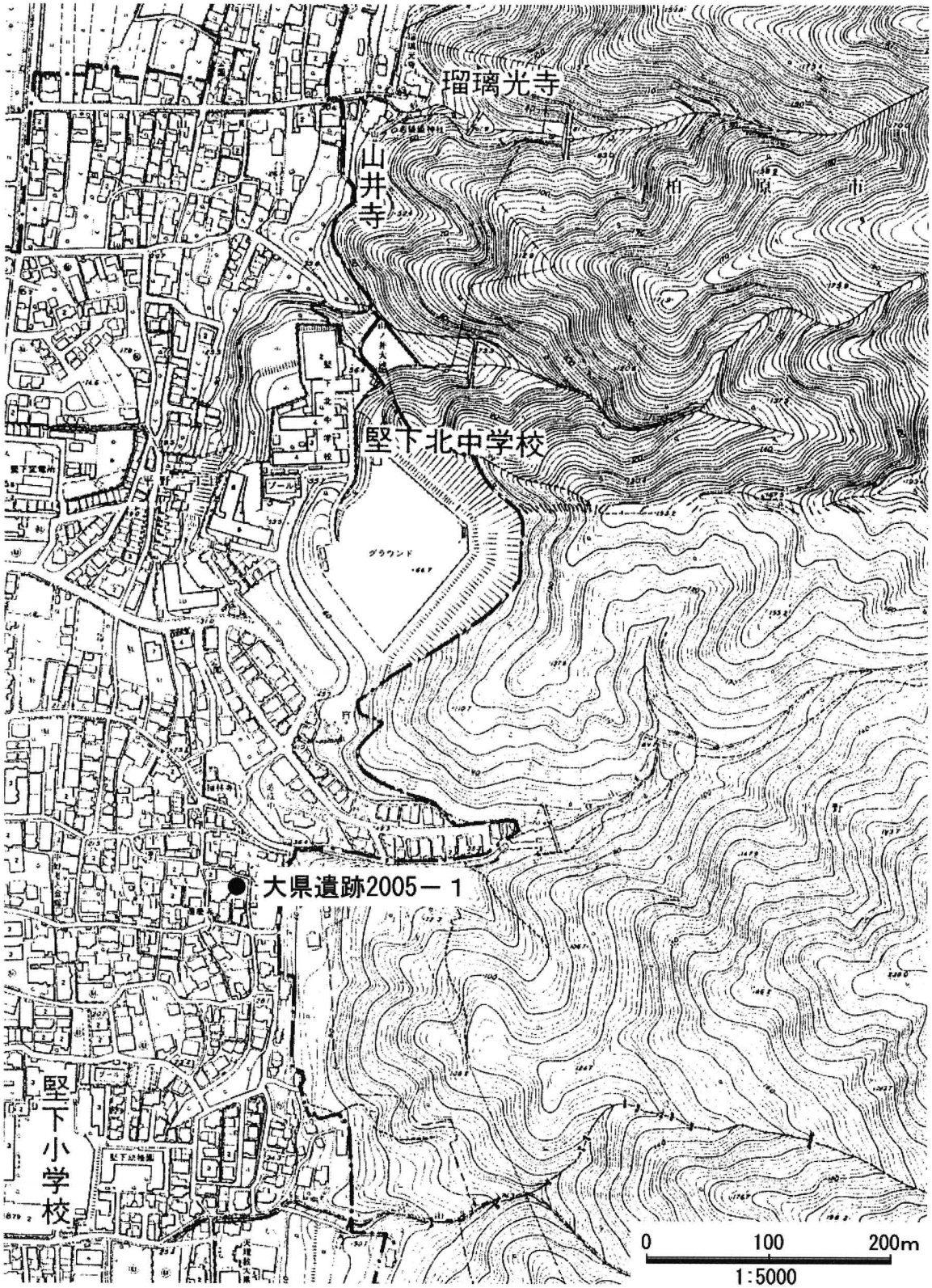


図２　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市平野 2-316

・調査期間　　平成 17（2005）年 8 月 22 日

・調査面積　　4.00 ㎡/128.69 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地の北側に２×２ｍのトレンチを設定、基礎掘削深度まで調査を行った。地表面から約 40ｃｍ下で、30～50cm 大の石を多く含む地山起源の盛土を確認した。遺構・遺物は認められなかった。

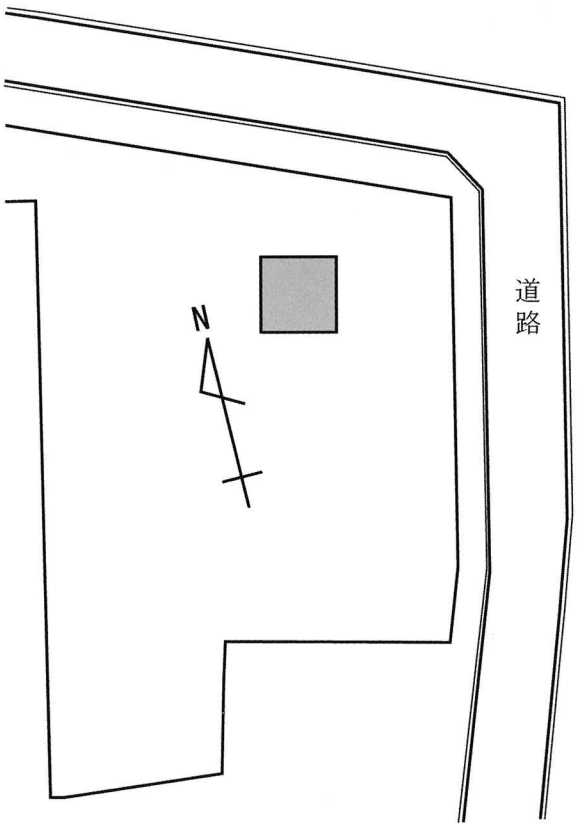


図３　調査位置図（S=1/200）

第２章　大県南遺跡

図４　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺 2-569-1 の一部、556 の一部

・調査期間　　平成 17（2005）年 5 月 27 日

・調査面積　　5.00 ㎡/863.50 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地の浄化槽設置予定地を重機により現地表下 80 ㎝まで掘削した。調査地は全て盛土である。上層から掘り込まれた現代の溝を検出したほかは、遺構・遺物ともに認められなかった。

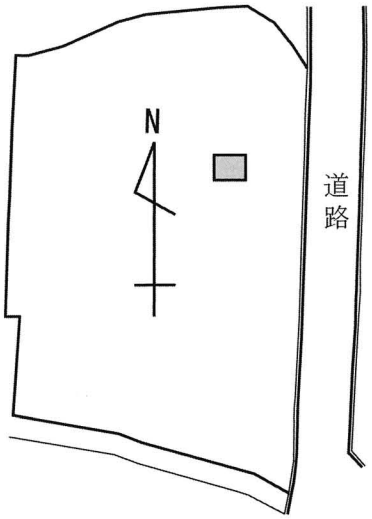


図５　調査位置図（S=1/600）

2005－２次調査

・調査対象地　　柏原市大県 4-242-1/243-1

・調査期間　　平成 17（2005）年 9 月 15 日

・調査面積　　4.00 ㎡/664.41 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内に 2.0×2.0mのトレンチを設定。基礎掘削深度である約 30㎝ 下まで掘削したが、遺構・遺物ともに認められなかった。

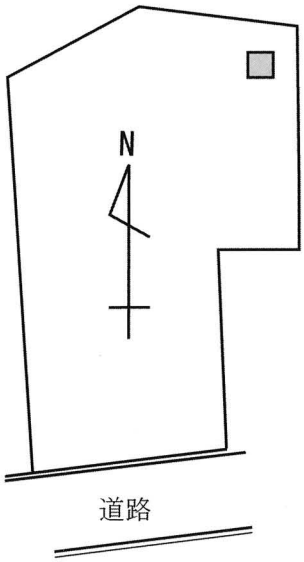


図６　調査位置図（S=1/600）

2005－３次調査

・調査対象地　　柏原市大県 4-247-4

・調査期間　　平成 17（2005）年 11 月 14 日

・調査面積　　0.75 ㎡/130.78 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内に 1.5×0.5mのトレンチを設定。提供重機により地表面下約 0.8m まで掘削した。地表面下約 0.4m よりシルト層が最下層まで続き、最下層では湧水が著しかった。遺構・遺物とも認められなかった。

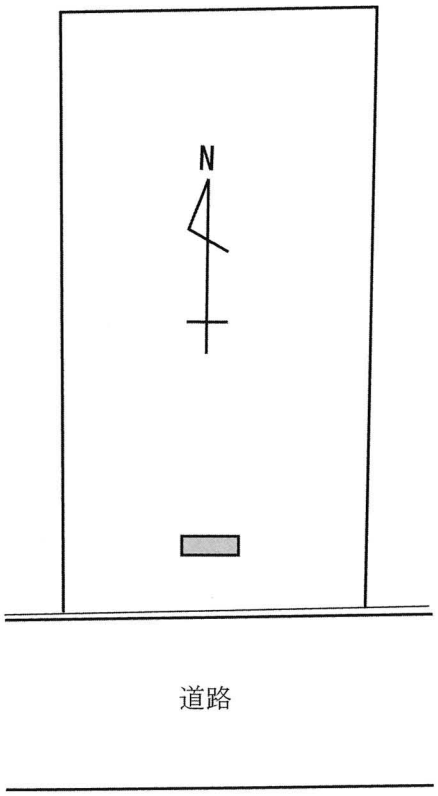


図７　調査位置図（S=1/200）

第３章　大県南廃寺

図８　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市大県 4-396-8 の一部

・調査期間　　平成 17（2005）年 12 月 1 日～2 日

・調査面積　　10.00 ㎡/117.70 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

大県南廃寺は古瓦が出土する事などから古代寺院跡と推定されるが、礎石や遺構などは見つかっていない。しかし、近年の調査で「山下背川」と書かれた墨書土器が出土しており、河内六寺の一つ、山下寺である事が確実視される。

対象地内に 3.0×2.0mのトレンチを設定し、提供重機により地表面より約 0.5m まで掘削した。それより下層は基礎部掘削予定深度まで人力にて精査・調査を行った。

柱穴を検出したため、調査区を拡張（東側に１㎡＋南西部に３㎡　）して、範囲を確認した。東側に柱列が続く可能性もあるが、工事が遺構面に影響しない箇所のため未調査である。検出した石が礎石の可能性もあるが、現状では柱が消滅したのちに入り込んだ状況しか判断しえなかった。

柱穴１からは炭と焼け土が少量含まれていた。但し、壁面に火を受けたような形跡は見られなかった。掘形からは、磨耗した土師器片が出土している。西半部からは遺構は検出されず、遺物もほとんど出土しなかった。地表面下約 0.8mで地山を確認した。

遺物は、時期を特定し得るものではないが若干出土している。１層からは、土師器片と瓦片が出土した。瓦片は桶巻き作りで、僅かに布目が残る。２層からは須恵器短頸壷片と磨耗した土師器が出土した。３層から布目の残る瓦片と須恵器・土師器片がある。しかし、いずれも磨耗が激しく流れ込んできたものと思われる。

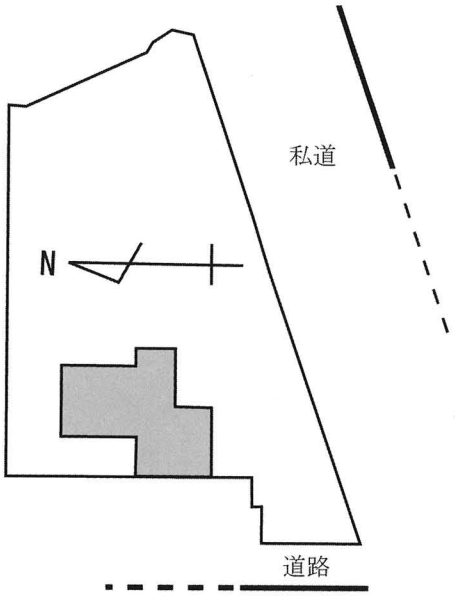


図９　調査位置図（S=1/200）

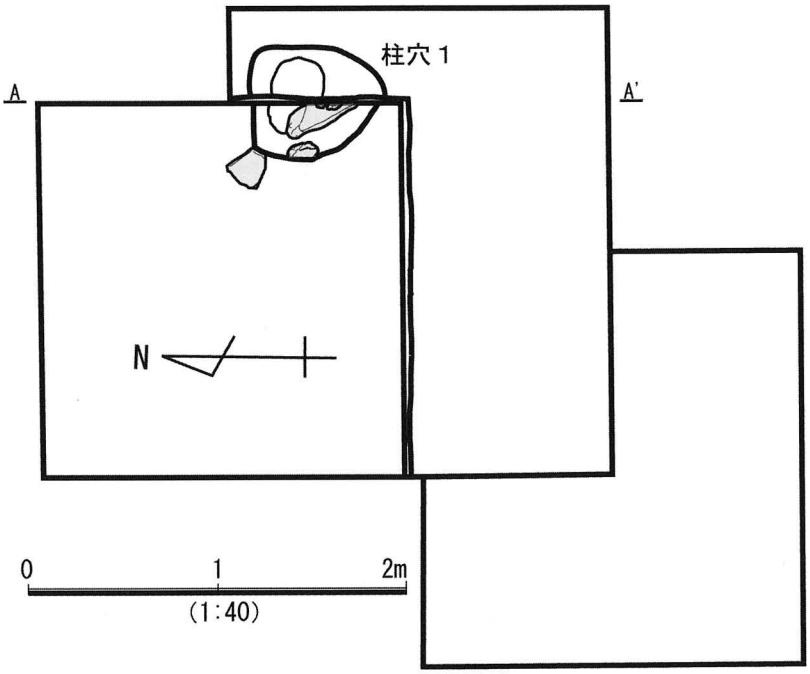


図10　調査区平面図（S=1/40）

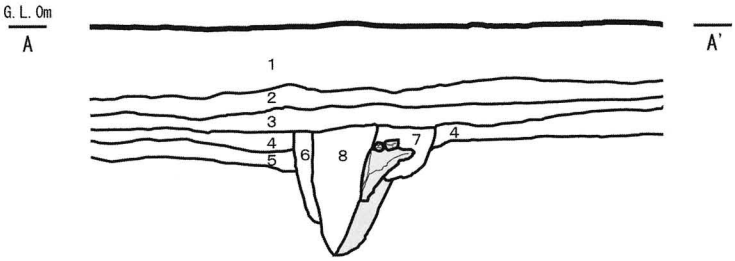


図11　土層断面図（S=1/40）

1　表土
2　旧耕作土
3　青灰色砂混じり粘土【包含層】
4　暗褐色粘土混じり砂【包含層】
5　明黄褐色粘土混じり砂【包含層】
　(3～5cm大の礫多く含む)
6　明黄褐色粘土混じり砂【掘形】
　(大型の石含む)
7　明黄褐色粘土混じり砂【掘形？】
　(大型の石含む)
8　暗褐色粘土混じり細砂（炭含む）
　【柱穴】

第４章　太平寺遺跡

図12　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺 2-539-1 の一部/-540-3

・調査期間　　平成 17（2005）年 5 月 2 日

・調査面積　　3.00 ㎡/407.45 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地北部に 1.5×2.0mの調査区を設定し、提供重機により掘削。人力にて精査現地表面より 1.2m 下まで掘削。すべて盛土で、遺構・遺物とも認められなかった。

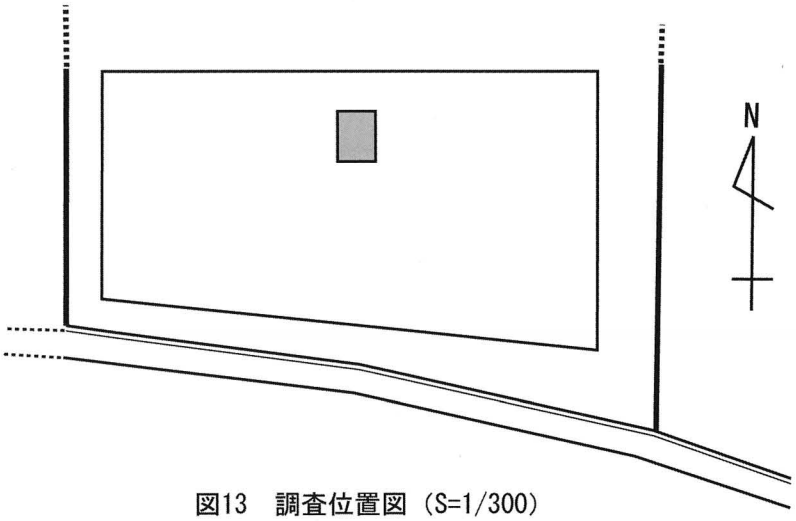


図13　調査位置図（S=1/300）

第５章　太平寺廃寺

図14　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺 2-361-5

・調査期間　　平成 17（2005）年 4 月 8 日

・調査面積　　0.33 ㎡/177.90 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内の浄化槽設置予定箇所に、1.1×0.3m の調査区を設定し、提供重機により掘削。その後、人力にて精査を行った。地表面下 1.1m まで掘削したが、全て盛土であった。遺構・遺物ともに認められなかった。

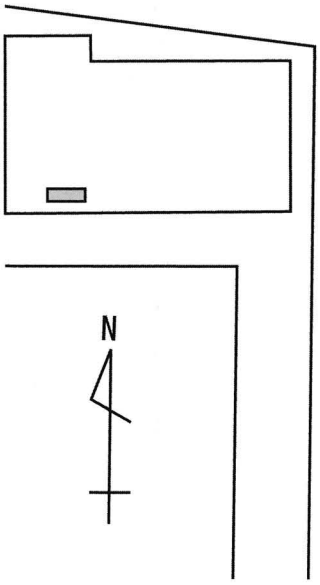


図15　調査位置図（S=1/300）

2005－２次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺 2-361-1

・調査期間　　平成 17（2005）年 5 月 9 日

・調査面積　　0.60 ㎡/166.29 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地北部に 1.2×0.5m の調査区を設定し、提供重機により掘削。地表面下 1.0m 下まで掘削。すべて盛土で、遺構・遺物とも認められなかった。

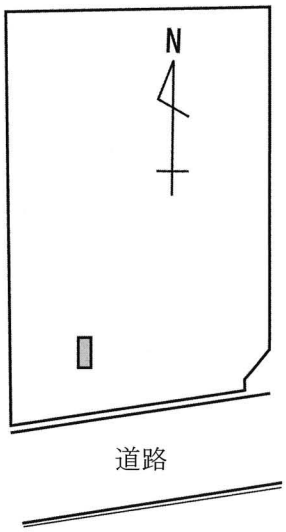


図16　調査位置図（S=1/300）

第６章　安堂遺跡

図17　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺 1-130-1/-6/-7

・調査期間　　平成 17（2005）年６月 21 日

・調査面積　　4.00 ㎡/4,516.41 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地中央に 2.0×2.0mのトレンチを設定し、掘削を行った。提供重機により、基礎掘削深度の地表面下 1.8mまで掘削を行ったが、全て盛土であった。遺構・遺物ともに認められなかった。

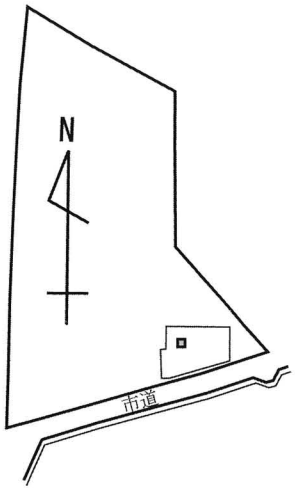


図18　調査位置図（S=1/2000）

2005－２次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町 926-1 の１部/926-2

・調査期間　　平成 17（2005）年７月 28 日

・調査面積　　4.00 ㎡/786.66 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地は近鉄安堂駅の東側に所在し、市道に面した場所に位置する。対象地内に 2.0×2.0mのトレンチを設定し、掘削を行った。地表面下より 2.0mまで掘削を行ったが、遺構・遺物ともに認められなかった。

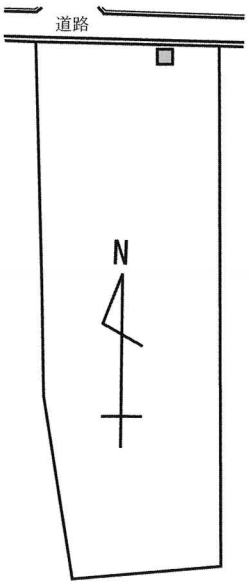


図19　調査位置図（S=1/1000）

2005－３次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町 708-5/686-2/708-8/709-3

・調査期間　　平成 17（2005）年 8 月 30 日

・調査面積　　2.00 ㎡/99.88 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内に 2.0×1.0mのトレンチを設定。浄化槽設置予定箇所を提供重機により掘削した。掘削予定深度である地表面下 1.6mまで調査を行った。安堂遺跡 2005-2 次調査地と同様に底部は青灰色の粘土層であった。谷地形の窪んだ地と思われ、遺構や遺物は認められなかった。

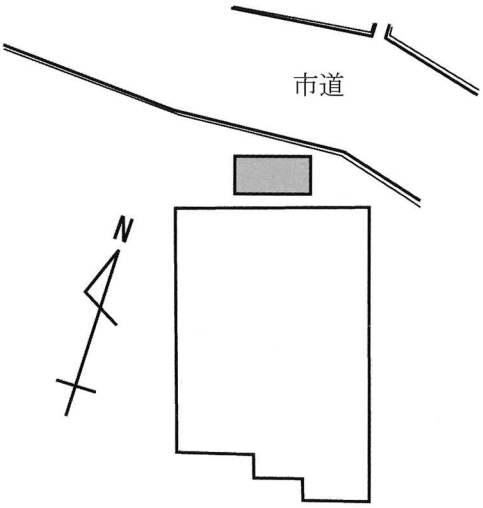


図20　調査位置図（S=1/200）

2005－４次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町 657-7

・調査期間　　平成 17（2005）年 9 月 21 日

・調査面積　　2.00 ㎡/86.58 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内に 2.0×1.0mのトレンチを設定。浄化槽設置予定箇所を提供重機により、地表面下約 1.4m まで掘削した。遺構・遺物とも認められなかった。

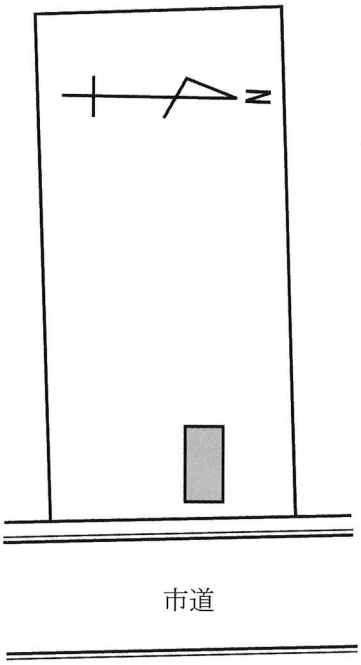


図21　調査位置図（S=1/200）

2005－５次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町 289-2/291-2

・調査期間　　平成 17（2005）年 10 月 31 日

・調査面積　　0.08 ㎡/169.13 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内に 0.4×0.2mのトレンチを設定。地表面下約 20cm まで掘削した。全て盛土で遺構・遺物とも認められなかった。

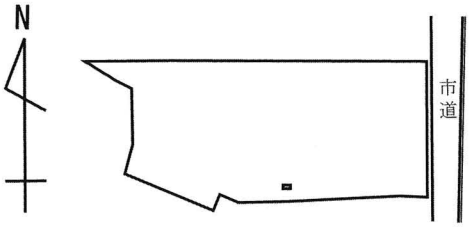


図22　調査位置図（S=1/400）

2005－６次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町 643

・調査期間　　平成 17（2005）年 11 月 4 日

・調査面積　　3.75 ㎡/384.81 ㎡

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

対象地内の浄化槽設置予定箇所に 2.5×1.5m のトレンチを設定。提供重機により、地表面下約 2.0m まで掘削した。遺構・遺物とも認められなかった。

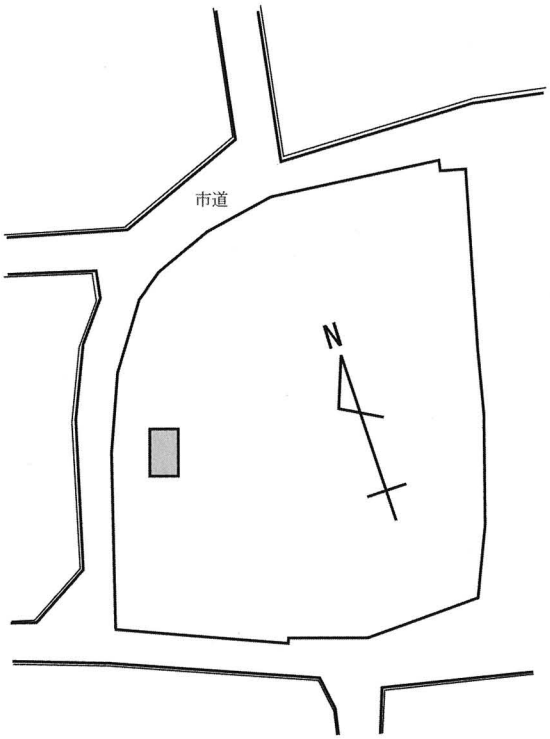


図23　調査位置図（S=1/400）

第７章　田辺遺跡

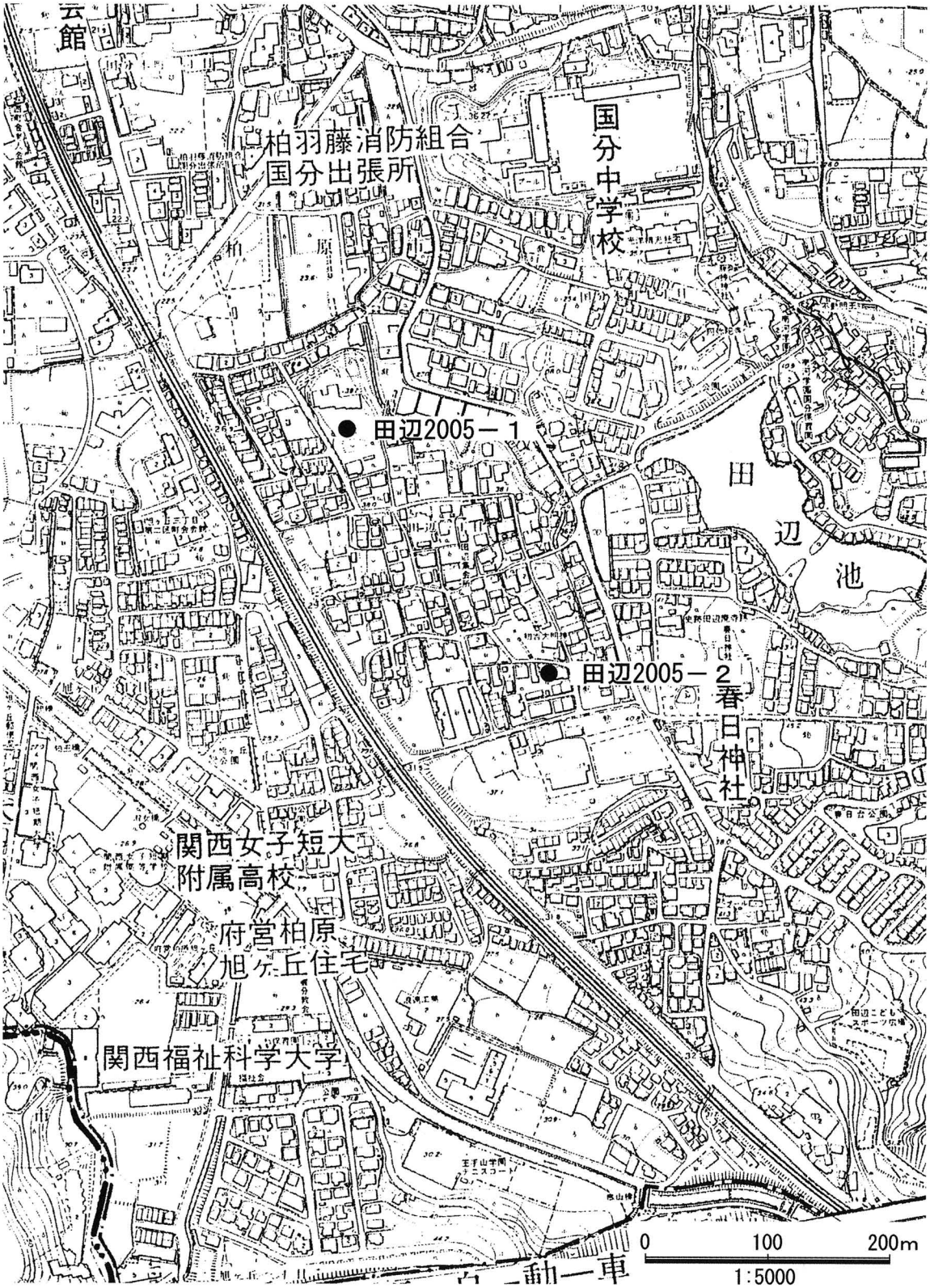


図24　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　柏原市田辺 1-380-1/380-2/382-1/-2/384-1/-2
385-2/355-21

・調査期間　平成 17（2005）年７月５日

・調査面積　6.00 ㎡/1,936.47 ㎡

・調査担当者　石田成年・島内洋二

対象地は、南から北から張り出す台地上に位置する。調査地内に 1.5×1.0mのトレンチを４箇所で設定。地表面下より 90cm まで掘削した。地表面下約 50cm で地山を検出。遺構・遺物とも認められなかった。

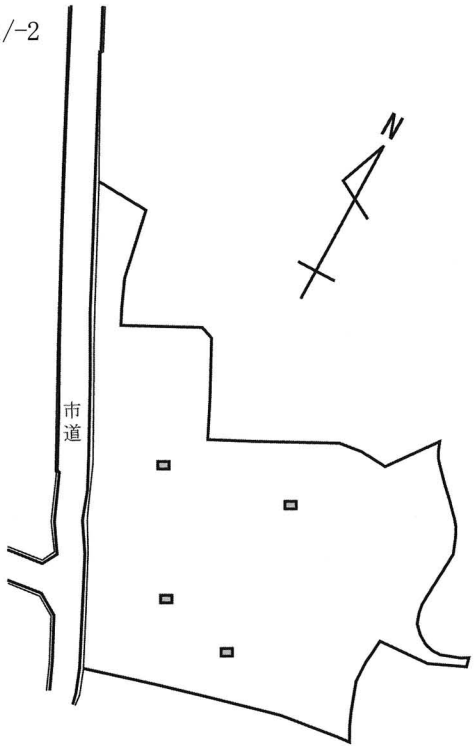


図25　調査位置図（S=1/1000）

2005－２次調査

・調査対象地　柏原市田辺 1-9-7

・調査期間　平成 18（2006）年３月９日

・調査面積　2.25 ㎡/434.57 ㎡

・調査担当者　石田成年・島内洋二

対象地は、おいなり古墳とも呼ばれる初吉稲荷社の道を挟んだ向かい側である。墳丘状に盛り上がった地形であるなどから古墳であったと推定され、大正時代には巨石が存在していたようである。田辺史伯孫との謂れを持つが、詳細は不明である。

当地は台地上にあるため削られている可能性があり、上層に遺物が含まれる可能性を意識して調査した。対象地南部に 1.5×1.5mの調査区を設定。現地表面より約 60cm 下まで掘削した。約 50cm 下で地山を確認。遺構・遺物ともに、認められなかった。

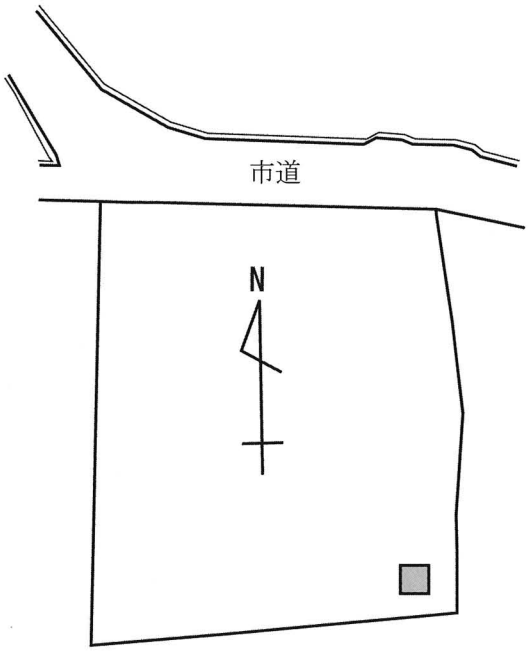


図26　調査位置図（S=1/400）

付章　田辺廃寺

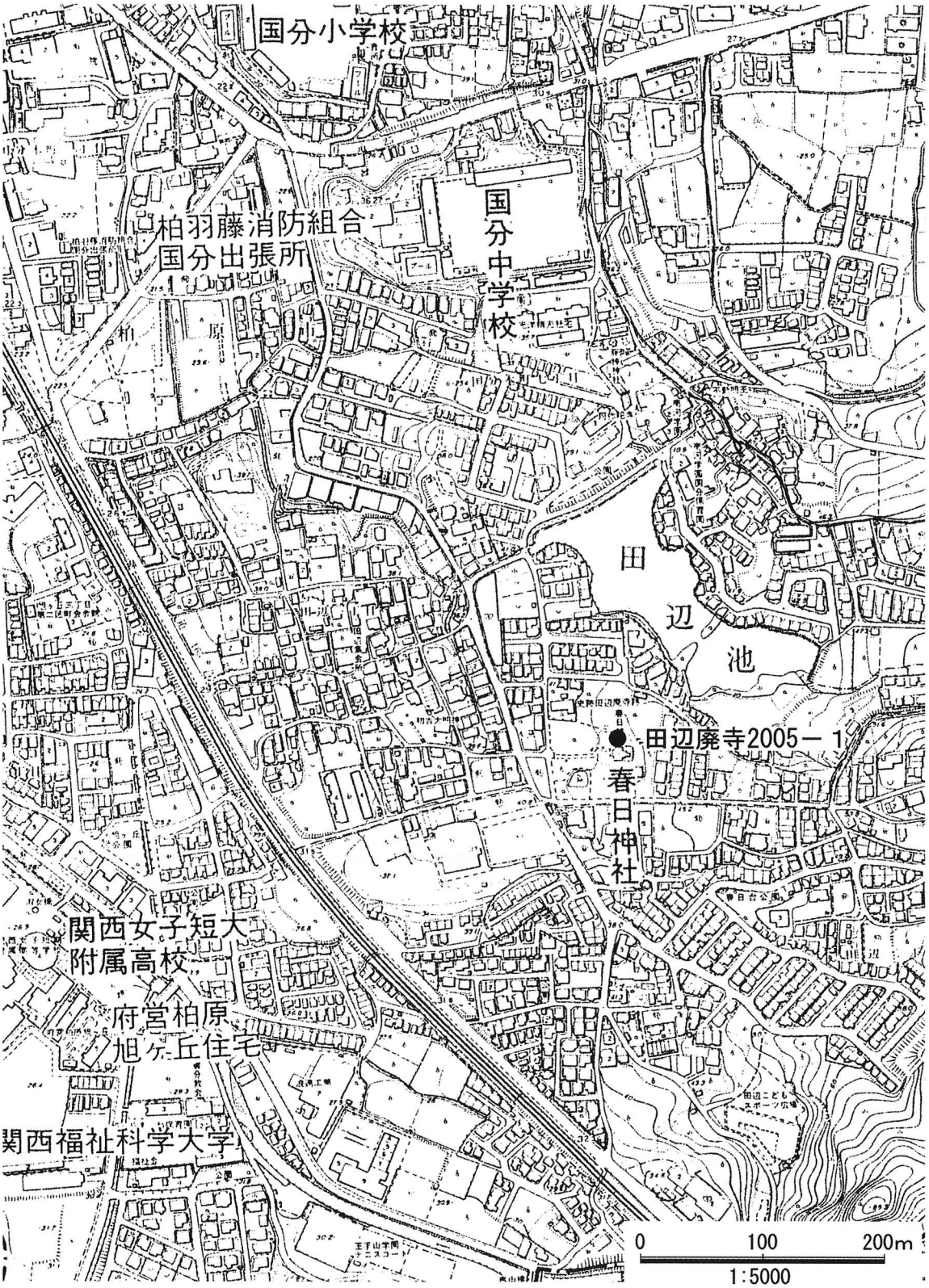


図27　調査地位置図

2005－１次調査

・調査対象地　　柏原市田辺 1-2046

・調査期間　　平成 17（2005）年 12 月 17 日～平成 18（2006）年 3 月 31 日

・調査担当者　　石田成年・島内洋二

はじめに

当地は、田辺１丁目の春日神社境内に所在する田辺廃寺である。田辺周辺の有力氏族であった田辺史氏一族が建てた氏寺と推定され、1971（昭和 46）年には大阪府教育委員会によって発掘調査が行われた。(註1) 東西に塔を持つ薬師寺式伽藍配置の古代寺院で、創建時期は７世紀末から８世紀初頭と考えられる。創建時期の瓦が金堂跡・西塔跡を中心に出土しており、東塔跡からは８世紀末の瓦が多く出土する事から、金堂・西塔→東塔の順に建立・整備が行われたと考えられている。その後焼亡するも、金堂だけは再建されて室町時代まで存続していたようである。当神社の創設時期や由来の詳細は不明であるが、『河内鑑名所記』や『河内名所図絵』などに記述が見られることから、江戸時代には既に存在していたようである。

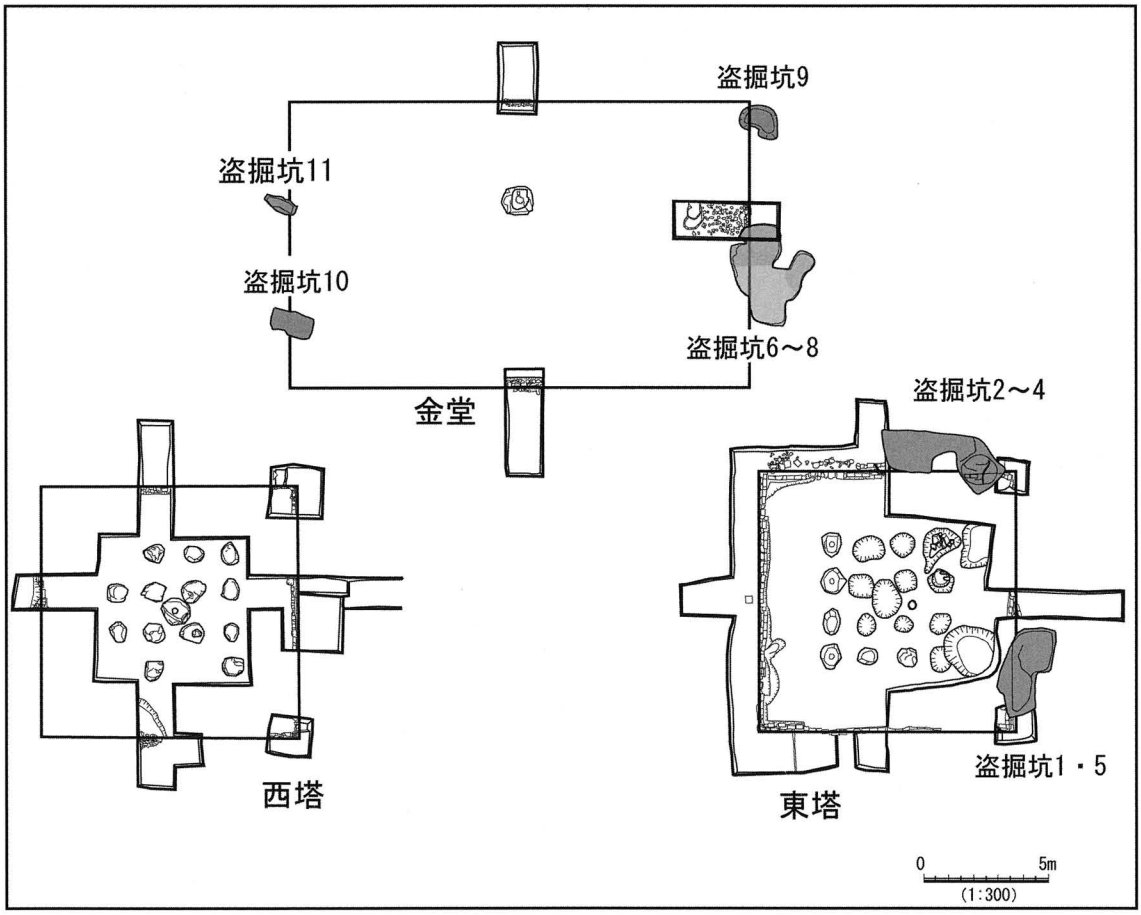


図 28　調査位置区（S=1/300）

本調査は、2005 年末に発覚した盗掘被害状況把握に伴う田辺廃寺の調査である。盗掘は、金堂跡と東塔跡にまで及んでいた。被害の状況を確認するために文化庁及び大阪府教育委員会の指導の下、盗掘孔内の調査を行った。新たにトレンチを設定することなく、被害状況の把握を主目的とした。今回は盗掘状況及び遺構の残存状況について報告する。盗掘坑内から出土した瓦等の遺物については改めて報告する予定である。

調査結果

①東塔跡

盗掘は東塔跡の東側で、地表面が不自然に盛り上がった状態で発見された。多量に瓦片が掘り返されており、その数は３コンテナを数えた。樹木の落葉により地表面が隠れた状況であったため、盗掘の範囲が確認出来なかった。そのため落葉の除去作業から行った。地表面が見えたところで、大きく東側と北側に盗掘坑がある事が確認できた。その後、表面のみを精査して範囲を確定し、盗掘坑内のみの調査を行った。盗掘孔内は掘り返した土で犯行を隠すように埋め戻されており、それらを再度掘削し被害の状況を調査した。

盗掘坑は大きく２箇所で掘られており、北東部及び南東部で確認できた。どちらも、1971 年に行われ

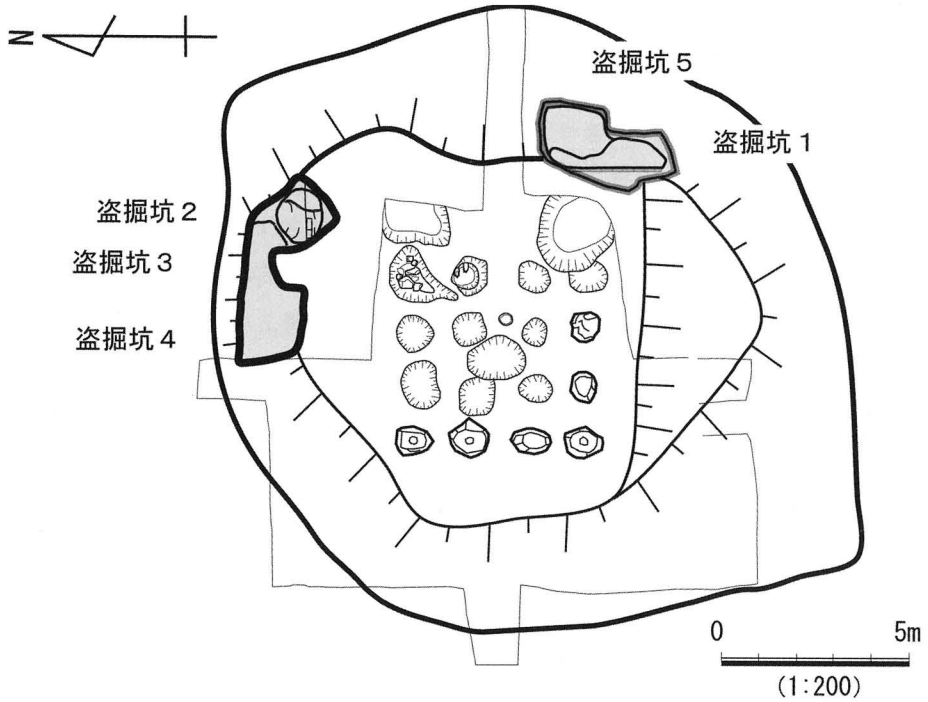


図 29　東塔跡被害状況図（S=1/200）

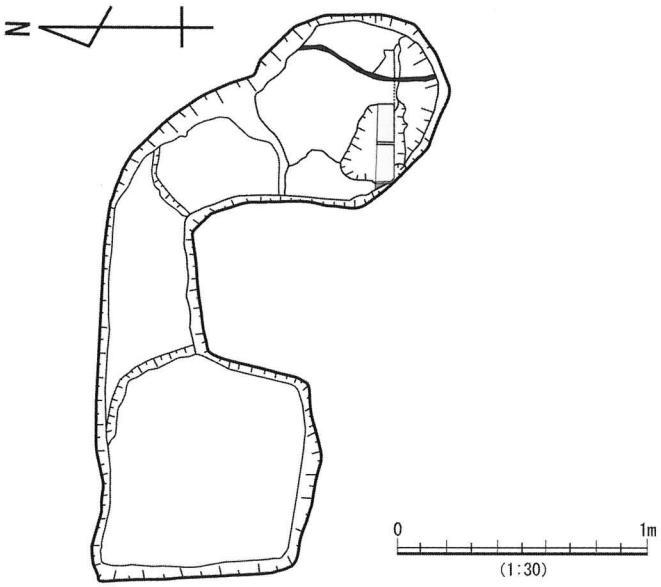


図30　盗掘坑２～４平面図（S=1/30）

た大阪府教育委員会の発掘調査で設けたトレンチの延長線上にあり、基壇部の損傷が懸念された。北東部では東西約５mにわたり盗掘されていた。おそらく数度に分けて掘削されたものと思われ、３個の盗掘坑を検出した。

盗掘坑３は埋め戻された土が若干締まっており、盗掘坑２・４に先行して掘られたものと思われる。底部は凹凸が激しく丁寧に掘られた様子では無かった。すぐ南側に樹木が生えているためか掘削範囲も小規模であった。そのすぐ西側の盗掘坑４ではさらに大きく掘削されており、塼積基壇の損傷が心配された。しかし、基壇縁辺部の検出面まで掘削は至ってなかった。以前の調査では、この位置よりすぐ西側で雨落ち遺構が検出されたが、今回は確認出来なかった。現位置よりも南側に位置するか下層にあるものと思われる。盗掘孔２・３、特に盗掘坑４は底部が赤く変色しており焼土が多く出土した。東塔が焼亡した際の痕跡であろうか。

盗掘坑２では、地表面より約30cm下から２個の塼の抜取り跡が検出された。盗掘坑４より南側、基壇縁辺部方向に掘り進めている事から、盗掘坑は３→４→２の順に掘られたと思われる。この事から、確実に塼もしくは基壇縁辺部に狙いをつけて掘削している状況が窺えた。盗掘坑２・４ともに、以前の大阪府教育委員会の発掘調査で設けたトレンチに接する箇所で、断面にシートが確認できた。確実に以前の調査の位置まで掘削を行っている。

東南部では、約3.5×1.0m程の盗掘坑を検出し、２個の土坑が掘られていた。盗掘坑１では地表面が窪んでおり、明らかに掘り込まれた状況が見られた。東西に半掘した際、断面では盗掘坑５の上から盗掘坑１が掘られており、盗掘坑５の埋土の方が若干締まった状態であった。その事から、盗掘坑５→１の順に掘られたと思われる。数回に分けて掘削した際に生じたズレのためか、底部に取り残されるよう

に塼が１個残存していた。東西に約1.0mの盗掘坑５を掘り、基壇縁辺部（塼積基壇）の位置を確認後に塼を抜いて埋め戻している。盗掘坑１では、確実に基壇端部の位置に絞って南北に掘削したようである。断面に塼積み跡が残っており、確認できるだけで26個分の塼の跡が検出された。出土した塼は数点を数えるのみであるから、断面に検出された塼積み跡からほとんどの塼を持ち去ったのは明白である。壁面は地山である黄褐色粘土で、以前の調査で報告されているように地山を削りだして基壇の形状を整えている。地表面下より約１mまで掘削されていたが、基壇部の最底部であるかは確認できなかった。しかし、最下部では幅が 30cm よりも一回り大きい正方形と思われる塼 が残存しており、基壇の最下部に使用された可能性が考えられる。

基壇を形成する塼が持ちされた事により、大きく遺構は破損されていた。しかし、基壇を形成している地山に関してはほとんど削られていなかった。そのため塼積の方法に関して新たに確認する事が出来た。塼を積み上げていく際、２段目以降は粘り気の強い地山の黄褐色粘土を厚さ１～２cmで塗りつけ、

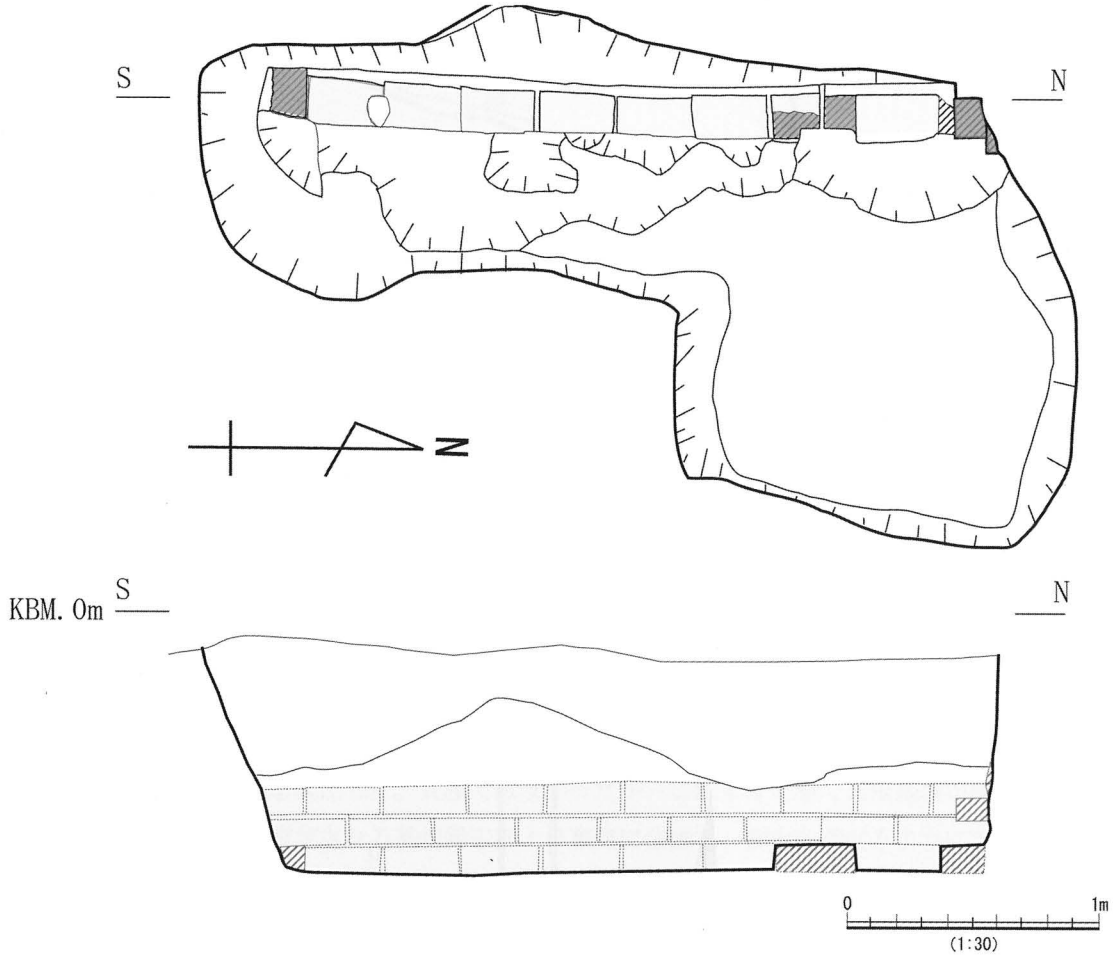


図31　盗掘坑１・５平面図及び立面（模式）図（S=1/30）

その後塼を置くといった現在の煉瓦積（長手積）と同じ方法を行っている。おそらく、不揃の塼を積み上げていく上で生じる高低差を修正するためと考えられる。今回の盗掘坑内の底部に残された塼にも約２cm の粘土が貼り付いた状況で見られる事から、横に並べる際も粘土を用いて接着面に塗りつけていた可能性がある。

②金堂跡

東塔跡の調査終了後に、当地内に他の被害が無いか金堂跡及び西塔跡の樹木落葉等の除去作業を行った。その際、金堂の東側と西側で盗掘坑を確認した。表面を精査した際、さらに北東部にも盗掘坑を確認した。埋土内の落葉の状態や埋土の締まった状態から、東塔跡よりも以前に掘られていたと思われる。

大きく４箇所で土坑を確認した。地表面下約 20～50cm ほど掘削している。東塔跡の盗掘坑に比べると掘削深度は浅く、土坑 1 個単位の範囲も狭い。残存状況が良くないためであろうか。しかし、以前の調査で設けられた東側調査トレンチのすぐ南側では南北約４m、東西約３mの範囲を掘削されていた。金堂跡は以前の調査で瓦積基壇である事が確認されているが、盗掘深度が浅いため今回検出には至らなかった。西側の盗掘孔 10・11 はともに掘削深度は浅く、これらも基壇の縁辺部を確認出来なかった。しか

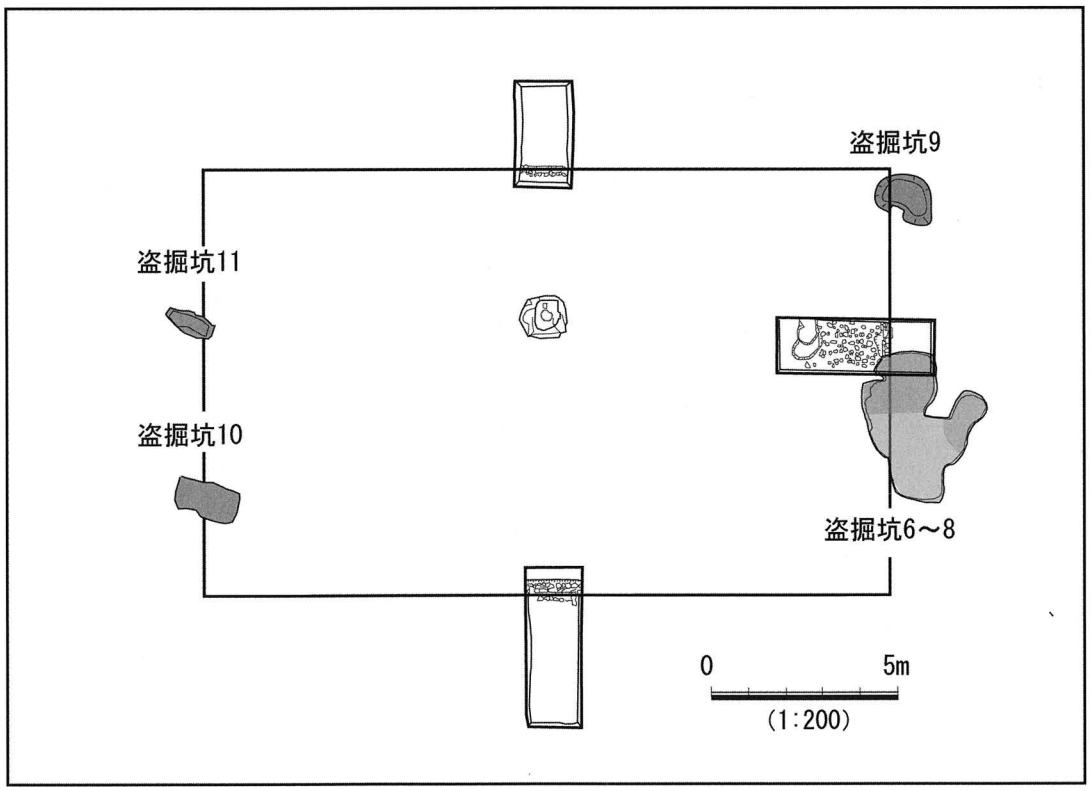


図 32　金堂跡被害状況図（S=1/200）

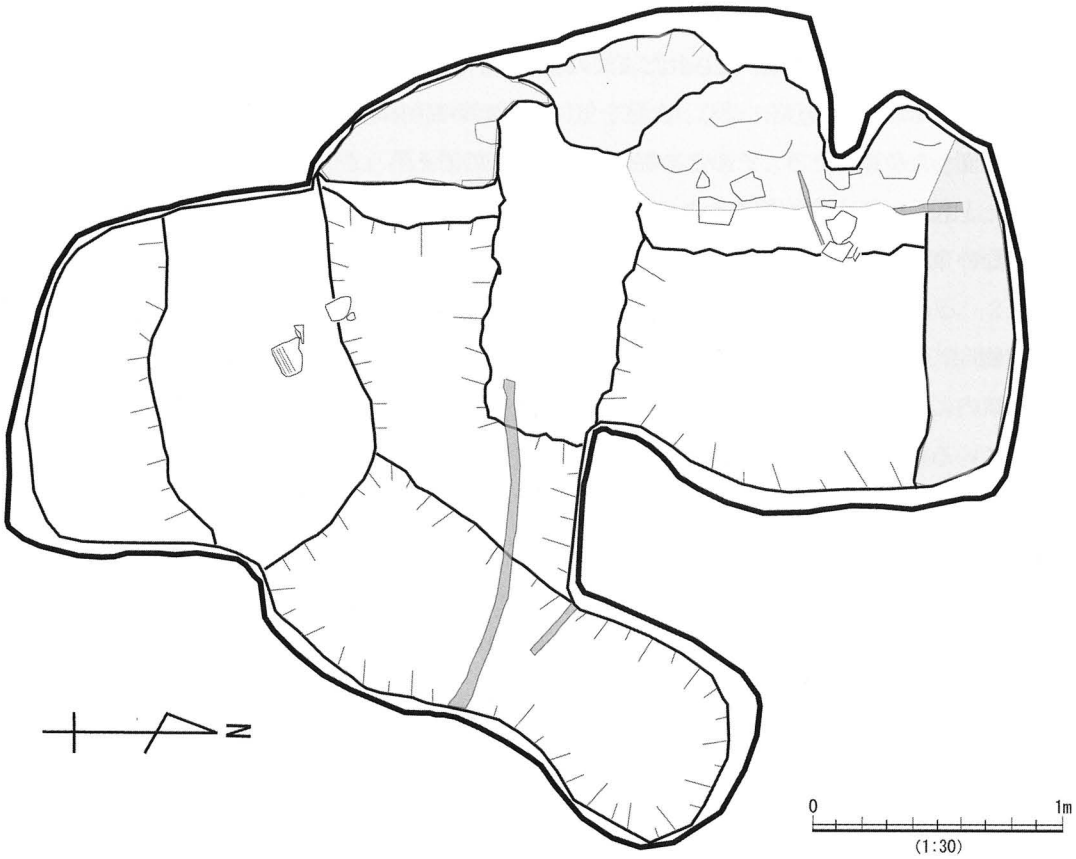


図 33　盗掘坑６～８平面図（S=1/30）

し、いずれの盗掘坑も基壇縁辺部ならびに基壇隅部を探るように掘削しており、全ての盗掘坑が推定される基壇縁辺部上にかかる。遺構が検出される面までは掘削されておらず、金堂跡では瓦を持ち去る事を目的として、掘られたのであろうか。

東側では、以前の調査トレンチに接する位置で検出された。盗掘坑６・８は掘削深度が地表面下より約 30～40cm であり、基壇の検出には至らなかった。しかし、盗掘坑８の西側では地山起源の包含層を確認、瓦片が平らに並ぶ状態を検出した。瓦積ではなかったが、これより下層で瓦積基壇が検出される可能性が高い。盗掘坑７では推定される基壇縁辺部より東側に位置し、樹木を避けるように北東方向に向かって掘削されていた。掘削深度は盗掘坑６・８とほぼ変わらなかったが、瓦の出土は少なかった。

基壇北東隅部を狙ったと思われる盗掘坑９では、地表面下約 30～40cm まで掘削されている。遺構の残存は確認できなかったが、盗掘坑８と同様に地山起源の包含層が確認出来た。検出面より下層で、遺構が残存しているものと思われる。

盗掘坑 10 は東側の盗掘坑より埋土が締まっており、盗掘坑６～９に先行するものと思われる。掘削深度は浅く推定される基壇縁辺部に位置するが、土取りの可能性も否定できない。

盗掘坑 11 も、盗掘坑 10 と同様に掘削深度は浅く遺構及び遺物を持ち去ることを目的として掘られたかは判断がつかない。土が掘り返されたままの状態で、今回の盗掘坑の中では１番新しく掘られている。但し、盗掘坑 10・11 は道路に近く、人目を気にしたため掘削深度が浅い可能性がある。盗掘坑９も同様に道路に面した位置にあり、そのため掘削範囲が狭いのであろうか。盗掘坑 10→９→６～８→11 の順で掘られたと思われる。盗掘坑の大きさが徐々に大きく掘られていったおり、金堂跡より奥に位置し人目に付かない東塔跡では、さらに深くまで盗掘した様子が窺える。

出土遺物

盗掘坑内に埋戻された土からは、多量の瓦が出土した。埋戻し土内からの出土であるが掘った直後に埋戻している状況から、ほぼ原位置を保っていると思われる。現在調査中であるためここでは、概要を報告するのみとし、後日あらためて遺物編を報告予定である。

金堂跡からは、平瓦の叩き目に有軸綾杉文や格子文が見られるものや桶巻き工法で作られたと思われる布目のある瓦が出土している。東塔跡では、平瓦は縄目の叩きや布目が残る一枚造りのものが多い。ベンガラと思われるものが付着した瓦も数点出土している。軒平瓦にも付着していることから、おそらく軒先の萱負や樽先に塗られたベンガラが付いたと思われる。軒瓦は約 20 点確認しているが多くが破片である。軒丸瓦は東塔跡側からの出土ほとんどで、いずれも二重圏線を伴う単弁の蓮華文で８世紀末頃に比定される瓦である。金堂跡からは、創建瓦と思われる軒丸瓦の破片が出土している。軒平瓦は均整唐草文で、数点の出土を見るだけである。金堂跡から出土した１点のみ中世以降の瓦で、他は全て東塔跡からの出土した古代瓦である。

平瓦の一部にベンガラと思われる朱色が付着した瓦片が 17 点出土している。そのうち、瓦当面を持つ軒平瓦が１点、凹凸面の成形方法からおそらく軒平瓦と思われるものが２点出土している。ベンガラが付着している事から、これらは軒先に飾られていた可能性が高い。瓦当を持つ軒平瓦は布目圧痕や縄目叩目などをナデ消している。しかし、その他の瓦には布目や叩き目が見られ、ベンガラの付着していない平瓦と同様の作り方をしている。そのため、平瓦を２枚重ねて軒先に噴かれていた可能性が考えられる。出土位置は、東塔跡と金堂跡両方から見つかっており、どちらも柱や樽先等に朱（ベンガラ）塗りが施されていた事を示唆している。

そのほかに、塼や釘、土器片が出土している。塼は１点須恵質のものが出土している。釘は約 20 点出土している。土器片は多くが細片であるが、緑釉のかかった土器も出土している。出土した遺物の中に焼土が出土しており、その中に壁面を持つものが多く含まれていた。これらについては以前に報告したが、ここでも簡単に概要を述べておく[註2)]。

壁土と判断できるものの中で、白土が確認できるものが約 50 点出土した。うち東塔跡出土のものが３点したのみで、多くが金堂跡からの出土であった。ベンガラと思われる朱色が付着している壁土が１点だけ出土している。若干緩やかに湾曲している事から、柱等の建具に接する面である可能性が高いものと思われる。荒土層の上に極薄い層、その上に白土層、ベンガラ層が塗られている。断面では、荒土層が２層確認できるものの第１層と第２層に大きな違いは見られない。白土層の上に朱色が塗られていることから、壁画の可能性も考えられたが、法隆寺や上淀廃寺等から出土している壁画と比較すると、荒

土層や中土層の上に厚みが約１～５㎜の砂質の表土層があり、その上にキャンバス面となる白土が塗られている点で異なっており、白土層の直下にスサが見えていることから、壁画では無いと判断した。

白土付着の壁土は、主に２層と３層のものが確認できた。白土層は薄いものはで１㎜以下、厚いもので２～３㎜にほぼ均一に塗られている。第１層は、藁スサを多く含む層で、粘土分の多い土を使用したと思われる。荒土層に該当する部分である。第２層は、長いもので３㎝以上の藁スサを使用し、２～３㎜の長石などが含まれ、よりスサの量が多い。厚みは１㎝前後である。中土層。第３層は、極薄く伸ばされた層で、若干スサを含む。但し、非常に薄い事ため、層として塗られたかは不明である。２層のものは中土層がなく、荒土層の上に、極薄い層（第３層）、その上に白土を施している。一部端部と思われる壁土には、荒土層・中土層・荒土層・第３層・白土層といったものも見られた。場所によって厚みが変化する場合には、当然壁土にも変化を持たせていたと思われる。

まとめにかえて

今回、金堂・東塔跡で大きく盗掘された事が判明した。数度に分けて盗掘されており、遺物も相当数持ち去られたのは真に遺憾である。特に東塔跡の基壇を形成する塼が大量に抜き取られていた。このような事態を受けて、2006年３月15日には、被疑者不詳のまま被害届ならびに告発状を大阪府柏原警察署に提出、同警察署員よる現場検証が行われた。同年３月18日には、事の重大性を鑑みて近隣住民の方々に現地を公開し、調査の経緯と現状の報告を行った。なお、今回被害にあった箇所は現状維持を優先に、調査終了後埋め戻しを行った。金堂跡北側の道路に面した箇所では、景観を損ねないように竹等を用いて柵の設置を行った。今後、このような行為が繰り返されない為にも近隣住民の方々の協力をお願いしたい。

註：引用文献

註１：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972

註２：島内洋二「資料紹介　古代の壁土～田辺廃寺出土・壁土～」『柏原市立歴史資料館報18』2006

図：引用文献

図28：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972に加筆

図29：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972に加筆

図32：大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972に加筆

参考文献

大阪府教育委員会『田辺廃寺跡発掘調査概要』1972

奈良文化財研究所『山田寺発掘調査報告』（奈良文化財研究所学報　第63冊）2002

山田幸一『日本壁』学芸出版社　1983

山田幸一『壁』ものと人間の文化史45　法政大学出版局　1981

斑鳩町教育委員会『若草伽藍跡西方の調査』2004

斑鳩町・斑鳩町教育委員会『史跡法隆寺旧境内の調査』2006
飛鳥資料館『キトラ古墳と発掘された壁画たち』奈良文化財研究所　2006
大阪府立近つ飛鳥博物館『古代の工房　豊かなる都・寺のきらめき』2006
淀江町教育委員会『上淀廃寺と彩色壁画　概報』吉川弘文館　1992

〔付記〕

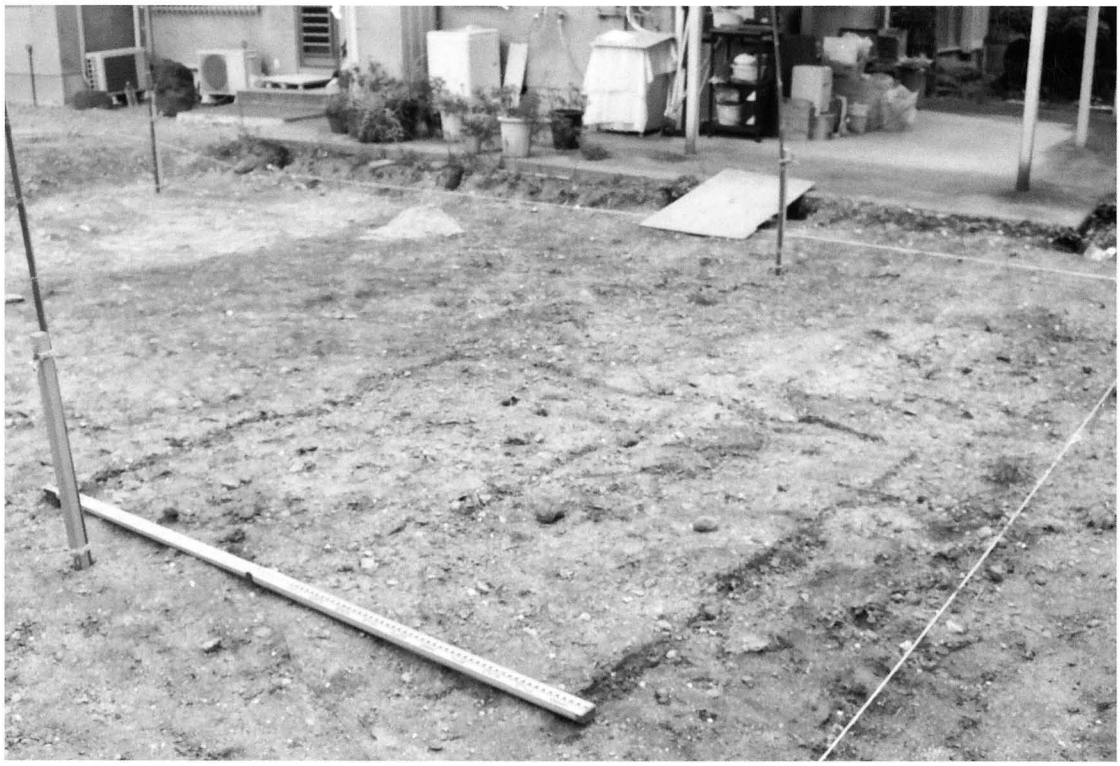
調査の際、次の方々に協力・助言を頂いた。末筆にてお礼申し上げます。(順不同・敬称略)

浅田　彬　荒木浩司　粟田　薫　市本芳三　上原真人　大脇　潔　岡　一彦　岡本敏行　甲斐弓子
北野耕平　黒田慶一　駒井正明　近藤康司　鹿野　塁　高井　皓　百橋明穂　平田政彦　本間元樹
枡本　哲　三好　玄　森　郁夫　山口誠治　山下隆次

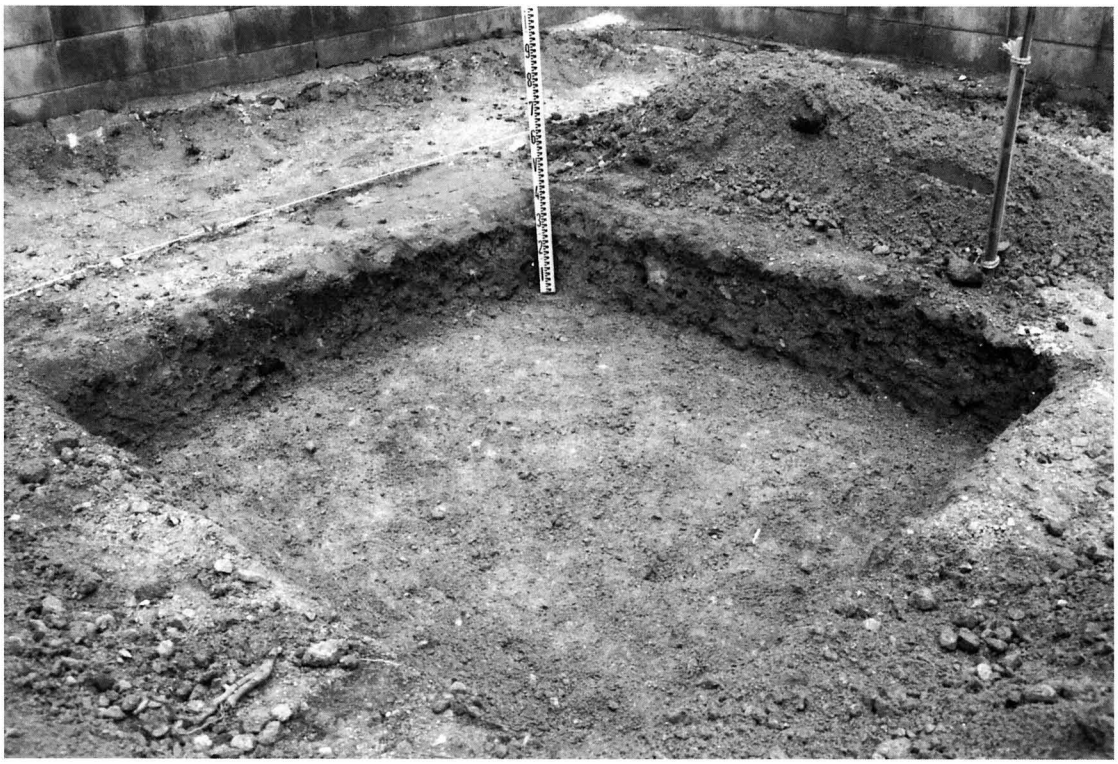
図　　版

図版１　大県遺跡2005－１次調査　調査区全景（北東から）

図版２　大県遺跡2005－１次調査　調査区掘削状況（南西から）



図版３　大県南遺跡2005－２次調査　調査区全景（北東から）



図版４　大県南遺跡2005－２次調査　調査区掘削状況（南西から）

図版５　大県南廃寺2005－１次調査　調査区掘削状況（北東から）

図版６　大県南廃寺2005－１次調査　注穴１検出状況（西から）

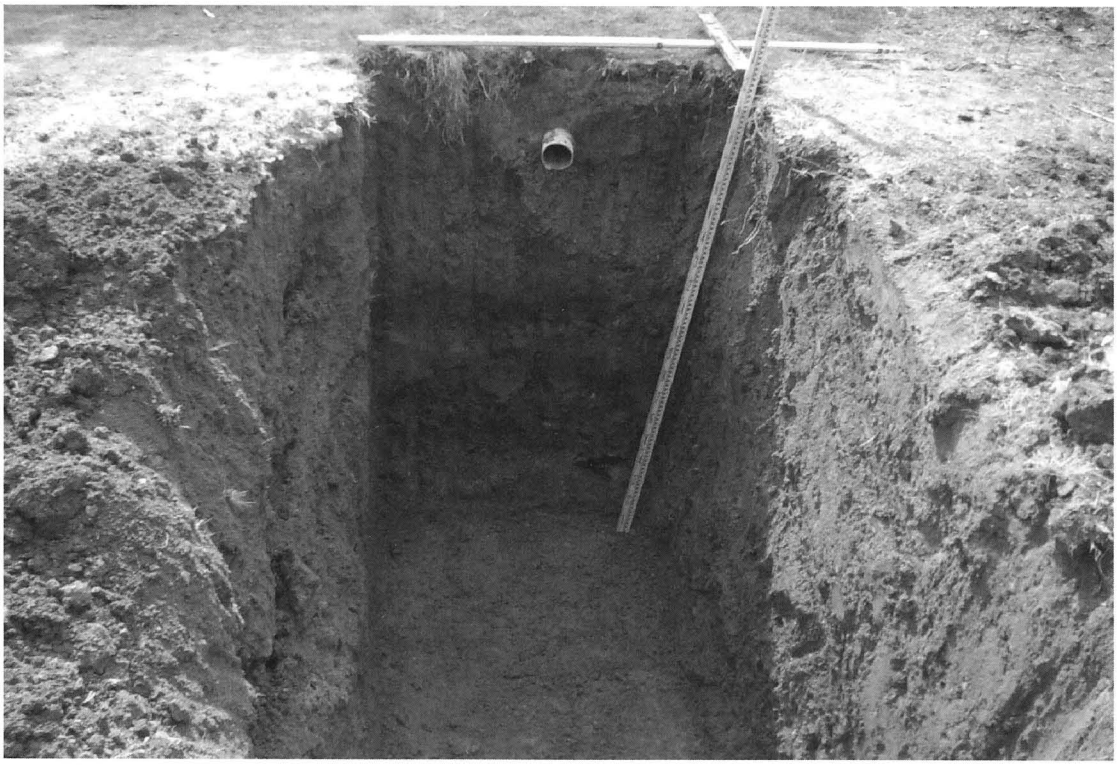
図版７　太平寺遺跡2005－１次調査　調査区全景（南東から）

図版８　太平寺遺跡2005－１次調査　調査区掘削状況（東から）

図版９　安堂遺跡2005－４次調査　調査区全景（東から）

図版10　安堂遺跡2005－４次調査　調査区掘削状況（南から）

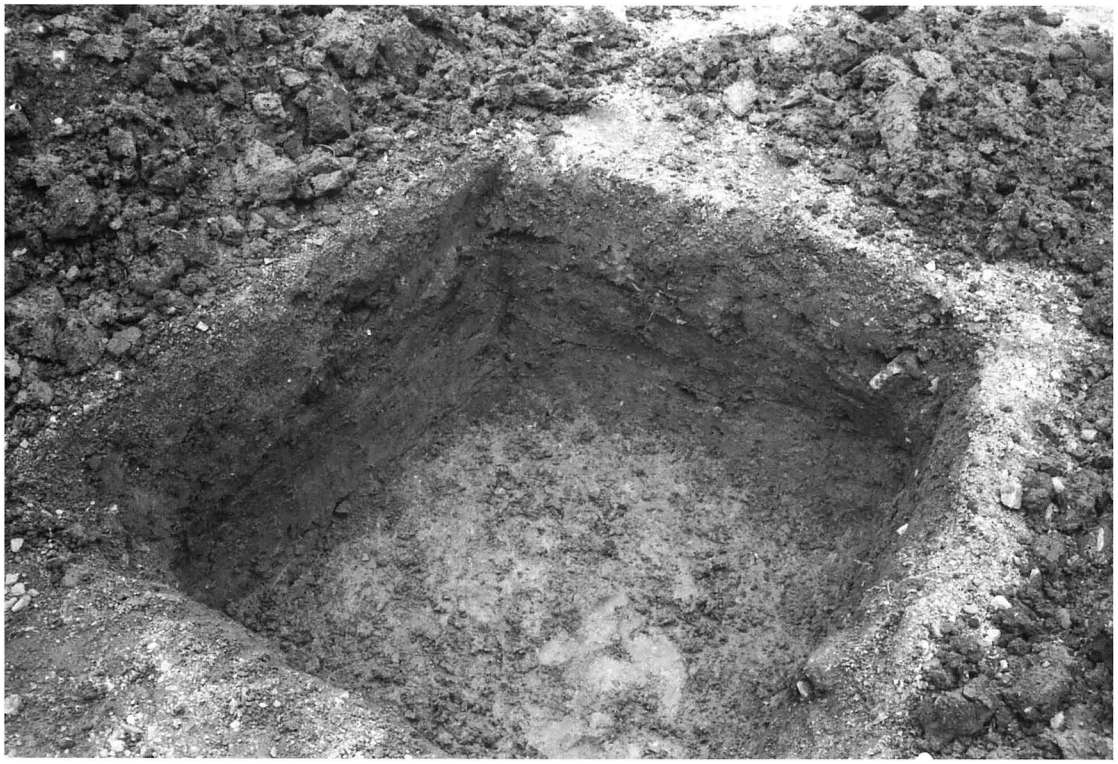
図版11　安堂遺跡2005－６次調査　調査区全景（南西から）



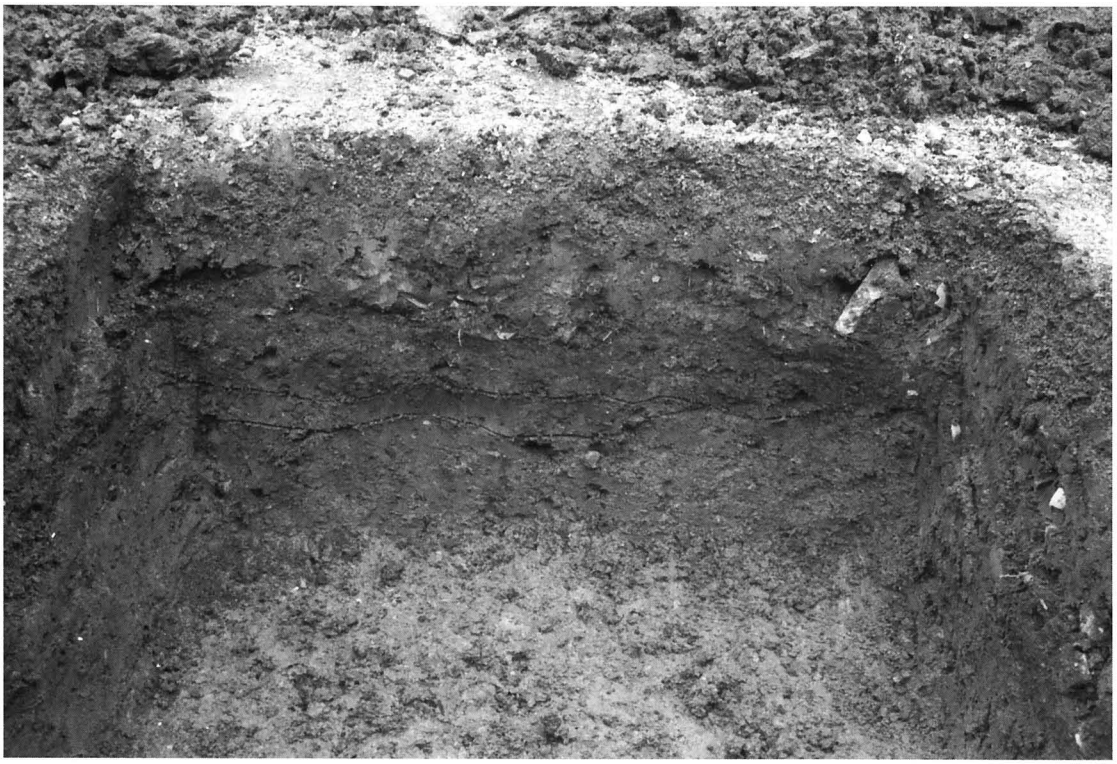
図版12　安堂遺跡2005－６次調査　調査区掘削状況（北から）

図版13　太平寺廃寺2005－２次調査　調査区全景（南東から）

図版14　太平寺廃寺2005－２次調査　調査区掘削状況（南東から）



図版15　田辺遺跡2005－２次調査　調査区掘削状況（南東から）



図版16　田辺遺跡2005－２次調査　調査区北壁（南から）

図版17　田辺廃寺2005－１次調査　盗掘坑２（北から）

図版18　田辺廃寺2005－１次調査　盗掘坑１・５（南東から）

図版19　田辺廃寺2005－１次調査　塼積み基壇目地残存状況（東から）

図版20　田辺廃寺2005－１次調査　盗掘坑５　塼残存状況（南東から）

図版21　田辺廃寺2005－１次調査　盗掘坑6～8（東から）

図版22　田辺廃寺2005－１次調査　金堂跡出土　壁土

報告書抄録

ふりがな	かしわらしないいせきぐんはっくつちょうさがいほう
書名	柏原市内遺跡群発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	柏原市文化財概報
シリーズ番号	2006-Ⅱ
編著者名	島内洋二
編集機関	柏原市教育委員会
所在地	〒582-8555　大阪府柏原市安堂町1-43　電話072-972-1051（代）
発行年月日	平成19（2007）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
おおがた 大県	ひらの 平野2丁目	27221	OG 2005－1	34° 35′ 37″	135° 38′ 01″	H17.8.22 H17.8.22	4.00	個人住宅
おおがたみなみ 大県南	たいへいじ 太平寺2丁目	27221	OGM 2005－1	34° 35′ 07″	135° 37′ 57″	H17.5.27 H17.5.27	5.00	共同住宅
	おおがた 大県4丁目	27221	OGM 2005－2	34° 35′ 19″	135° 37′ 57″	H17.9.15 H17.9.15	4.00	個人住宅
	おおがた 大県4丁目	27221	OGM 2005－3	34° 35′ 18″	135° 37′ 58″	H17.11.14 H17.11.14	0.75	個人住宅
おおがたみなみはいじ 大県南廃寺	おおがた 大県4丁目	27221	OGMT 2005－1	34° 35′ 18″	135° 38′ 00″	H17.12.1 H17.12.2	10.0	個人住宅
たいへいじ 太平寺	たいへいじ 太平寺2丁目	27221	TG 2005－1	34° 35′ 05″	135° 37′ 54″	H17.5.2 H17.5.2	3.00	店舗
たいへいじはいじ 太平寺廃寺	たいへいじ 太平寺2丁目	27221	TGT 2005－1	34° 35′ 00″	135° 37′ 55″	H17.4.8 H17.4.8	0.33	個人住宅
	たいへいじ 太平寺2丁目	27221	TGT 2005－2	34° 35′ 00″	135° 37′ 58″	H17.5.9 H17.5.9	0.60	個人住宅
あんどう 安堂	たいへいじ 太平寺1丁目	27221	AD 2005－1	34° 34′ 53″	135° 37′ 44″	H17.6.21 H17.6.21	4.00	倉庫他
	あんどうちょう 安堂町	27221	AD 2005－2	34° 34′ 49″	135° 37′ 51″	H17.7.28 H17.7.28	4.00	分譲住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221	AD 2005－3	34° 34′ 49″	135° 37′ 56″	H17.4.18 H17.8.30	2.00	個人住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221	AD 2005－4	34° 34′ 44″	135° 37′ 53″	H17.9.21 H17.9.21	2.00	個人住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221	AD 2005－5	34° 34′ 43″	135° 37′ 55″	H17.10.31 H17.10.31	0.08	個人住宅
	あんどうちょう 安堂町	27221	AD 2005－6	34° 34′ 43″	135° 37′ 54″	H17.11.4 H17.11.4	3.75	個人住宅
たなべ 田辺	たなべ 田辺1丁目	27221	TB 2005－1	34° 33′ 42″	135° 38′ 21″	H17.7.5 H17.8.1	6.00	宅地造成
	たなべ 田辺1丁目	27221	TB 2005－2	34° 33′ 56″	135° 38′ 26″	H18.3.9 H18.3.9	2.25	個人住宅

柏原市内遺跡群発掘調査概報

平成17（2005）年度

発　行 ：柏原市教育委員会
大阪府柏原市安堂町1-43
発行日 ：平成19（2007）年3月31日
印　所 ：近畿印刷センター